

参院選模擬投票結果特集 22号

2004年7月17日 芝浦工大柏中学高等学校社会科

～ 中二 90% 中三 75% 高一 48% 高二 61% 高三 31% ～
投票率 56.4%、民主 1位 36%

参議院選挙の投票日7月11日寸前、中学は8日放課後、高校は9日の昼休みと放課後に、生徒会役員が未成年選挙の模擬投票を受け付けた。投票率は見出しの通りで、この他に中1の希望者が20人参加した。高1が昨年比で24%減、授業で選挙の話をしていないことが影響したか。また高3が昨年並の低投票率で、受験期とはいえ残念である。

今回のアンケートから見える状況は、昨年の衆議院選挙より政党を選ぶことが難しかったようで、「本当に投票したい政党は見つかりませんでした」や「政党や選挙は、とても難しいと思いました」と答える比率が高かったことである。社会科通信で、マニフェストの要約表をつくるなどしたが、政策の対立が明確でなかったため、マニフェストだけでは判断が難しいのだろうか。ある意味で、小泉政権の年金やイラク戦争への関わり方や、首相の「人生いろいろ」発言などへの評価が問われたのだろう。中学高校生に分かりにくい選挙だったと言えるだろう。

自民苦戦、民主躍進

というのが、多くの見出しだったようである。改選議席と最終議席を比較すると、自民は5049、民主は3850なので、こうした評価が可能である。が、参議院は半数改選なので、新勢力として見てみると、

自民	民主	公明	共産	社民	無所属	合計
115	82	24	9	5	7	242

となり、自民と公明の与党で十分な過半数を保持していることがわかる。

しかし、3年後の参院選で同じ傾向となれば、参院の与党過半数が消える。また、選挙直後の朝日新聞調査では「政党支持率で民主が29%、自民が27%となり、55年の保守合同以来初めて自民が他党を下回った」そうなので、この選挙結果が、政権交替をうまないにしても、大きな政治的影響をもたらすことは明らかである。今後の各党の動きをじっくり観察する必要があるだろう。新聞がますます重要になりますね。

比例代表		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	有効票総計
実際の選挙	投票数 得票率	1680万 30.0%	2114万 37.8%	862万 15.4%	436万 7.8%	299万 5.4%	5391万 100%
芝浦工大柏	投票数 得票率	209 32.8%	227 35.6%	68 10.7%	66 10.3%	53 8.3%	623 100%
中学	投票数 得票率	101 36.6%	99 35.9%	22 8.0%	28 10.1%	25 9.1%	276 100%
高校	投票数 得票率	108 29.8%	128 35.4%	46 12.7%	38 10.5%	28 7.7%	362 100%

他に
女性10
みどり3
新風2

参院選模擬投票結果特集

『朝日新聞』2004年7月10日(土)朝刊、千葉版に大きく掲載された記事。